

社協だより

よろこび多い
まちづくり



VOL.
78

令和8年2月1日号

サンタさん
来てくれたかな?

わくわく♪ちびっこ広場（塩川会場）では、
12月23日（火）にクリスマス会を開きました。

折り紙をちぎって、自分だけの、
世界にひとつのツリーを作りました☆



目次

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| 2 第21回喜多方市社会福祉大会 | 9 生活サポートセンターからのお知らせ・
成年後見相談センターより |
| 3~5 ちいさなて優秀作文 | 10 地域包括支援センターからのお知らせ |
| 6 社協トピックス | 11 寄付報告 |
| 7 赤い羽根共同募金 | 12 インフォメーション |
| 8 ぼらせん通信 | |

喜多方市
社会福祉協議会公式



喜多方社協HP



FACEBOOK

第21回 喜多方市社会福祉大会

令和7年11月13日(木)、喜多方市総合福祉センターにおいて第21回喜多方市社会福祉大会を開催しました。

第一部の式典は、喜多方市の社会福祉向上並びに共同募金運動に多大なご貢献をいたいたいた方々に対し、表彰状、感謝状の贈呈を行いました。また、市内小中学生から募集した福祉作文「ちいさなて」の優秀作文の発表を行い、優秀賞の児童生徒の皆さんとのボランティア活動体験や福祉に対する考え方についていきいきと発表する姿に皆さん感心して聴いていました。

大会宣言では、この大会を契機として、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせること、また、この実現に努めるこことを参加者一同誓いました。

第一回は「気象予報士の斎藤恭紀氏による「教えて斎藤さん！会津・喜多方の天気と防災」と題して」講演をいただきました。講演では、令和7年2月に会津地方全域で見舞われた大雪災害や、令和4年8月に発生した豪雨災害を振り返り、会津・喜多方地方の地形や地質との関連とともに、何故災害が起るのかといった内容や、クマの大量出没の背景にある環境変化や今冬の雪の予報等、テレビで拝見する際と同じくわかりやすくお話をいただき、聴講された皆様の防災意識を高めることができた貴重な講演となりました。



斎藤恭紀氏による記念講演



表彰状贈呈

福島県共同募資金会会長感謝

塩川町誘致企業協議会
満福寺

会津喜多方ライオンズクラブ
あいづ塙川湯川ライオンズクラブ
熱塙加納町赤十字奉仕団
一般社団法人 南町報徳社
医療法人 昨雲会職員一同
喜多方市ボランティア連絡協議
喜多方市役所

福島県共同募金会会長感謝

福島県立 喜多方高等学校
福島県立 喜多方桐桜高等学校
喜多方佛教会
喜多方シティエフエル株式会社
熊倉町民生児童委員協議会

社会福祉大会会長感謝

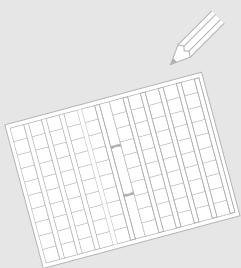
社会福祉事業を理解し
多額の寄付をされた方、団体
山 仲 齋 藤 穂 子
川 口 和 弘 勇
五十嵐 喜代美
斎藤 カツ子

社会福祉大会会長表彰

社会福祉事業を理解し多年にわたり地域福祉の充実に尽力された方
古林齋藤英健一郎勇
川雄

共同募金運動を理解し
令和6年度において
多大な貢献をされた団体

きたかた社協だより



児童生徒の福祉作文 「ちいさなて」

優秀賞
受賞作文の
ご紹介

本会では、未来を担う児童・生徒の皆さんへの理解と関心を高めボランティア精神を育むため、市内の小中学校をボランティア活動普及事業協力校として指定し、各学校で行われる福祉教育を支援しています。

こうした学校のボランティアや福祉活動及び地域や家庭での福祉体験をおして、日頃から感じている事などを子供たちの目線で綴って、福祉作文集「ちいさなて」として発刊しております。

以下の作文5点は令和7年度の「ちいさなて」より優秀作文として選考されたものです。



ボランティア活動の様子

最後まで責任をもつて

小学生の部

令和7年度 児童・生徒の
福祉作文 優秀賞受賞作文

喜多方市立上三宮小学校 五年
庄司優愛



私は五年生は、地域のゴミ拾いやそらじをしてきました。目的は駐在所のおまわりさんや郵便局、公民館など、いつもお世話になっている方に感謝の気もちを届けるためです。みんなで協力してやろうと決めました。

地域をきれいにしたいので、やる気満々です。トングやバケツを一輪車に乗せ、ゴミ袋を持って出発しました。

の智華さんが、「出発進行。えいえいおー。」とかけ声をかけました。それを聞いて私は、「一生懸命、きれいにしよう。」と心に誓いました。

最初に行つたのは、畑の水やりなどでお手伝いしてくれている公民館さんです。そこに行くまでの道路には、空き缶やたばこの吸いがらがたくさんありました。私は「誰が捨てているんだろう。」と不思議に思いました。いかりがこみ上げてきました。

そのあと、学校の周りを歩きました。そこにもまた、たばこの「ごみ」がありました。

た。しかも箱のままです。なんだか悲しくなってきました。こんなにたくさん捨てられているなんて…。しかも、私たちの学校の近くなのに…。もし火事になつたらと考えたら、いやになりました。すぐ近くに草にまぎれて、大量の「ごみ」がありました。お菓子の袋、手袋など、こんな所にというものはばかりです。大人の人は気づかないのかなと思いました。

学校の周りにこんなに「ごみ」があるなんて思っていませんでした。

次の日、登校する時にその道を通り、またたばこの吸いがらが二個くらいあるのを見つけました。「またある。」と思つてしましました。「ごみ拾いをする前は、「ゴミが少しあるな。」といふくらいにしか思つていませんでしたが、自分達で拾うと、ものすごい量でした。

私達の学校の周りの「ごみ」をなくすために、いい方法を考えました。

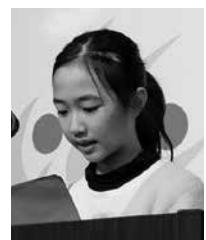
一つ目は、看板を作ることです。理由は、「ゴミをする人が看板を見たらきっとゴミを捨てなくなると思ったからです。

二つ目は、チラシを配るといいと思います。チラシをもらった人は、それを見て「ゴミを捨てないようにしよう。」と思ってくれるかもしれないからです。

三つ目は、声かけです。この辺には「ゴミがたくさん落ちています。捨てている人を見かけたら声をかけてみてください。みんながこれらの活動をすれば、多分ゴミが少しずつ減つてくるかもしれません。いつまでも、きれいな上三宮小学校でいられるようにしたいです。

自分にできる」とを

喜多方市立慶徳小学校 五年



今、日本は、「超高齢化社会」になっているそうです。高齢の者の中でも、認知症になると物忘れがひどくなったり、それまでできていたことができなくなったりして、今までと同じ生活ができなくなってしまいます。治すことができない病気です。

私は、自分の細胞が死んでしまった原因で、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなってしまったりする病気だそうです。認知症になると、物忘れがひどくなったり、それまでできていたことができなくなったりして、今までと同じ生活ができなくなってしまいます。治すことができない病気です。

私の家族で、大切な人が認知症になってしまったなら、私は何ができるだろう。そう考えて、私は、夏休みにとなう。ついでに、声掛け訓練」に参加しました。この訓練は、認知症の人が道に迷ったとき、どのように声をかけてお手伝いしたら、その方が安心安全にお家に帰れるかを学ぶものでした。私は、アドバイスをもらいながら、認知症役の人には繰り返すので、お話を進めるのが思つたよりもむずかしく、うまくできませんでした。でも、認知症役のおばあちゃんが嬉しそうにしてくれたので、私も楽しくお話をできました。

認知症の方は同じ話を繰り返し、失

土屋陽葵

私を変えた奉仕活動

喜多方市立慶徳小学校 六年



私は、あることをきっかけに、進んで地域のゴミを拾う清掃活動や文化財の汚れを落とす

敗ばかり続いて気持ちが落ち込み、かなり気持ちになるそうです。そして一番つらいのは、その人なんだということも学びました。だから私は、お年寄りが困っていたら助けてあげたい、何度も同じことを聞かれても、何度も教えてあげたいと思いました。この訓練で、認知症になつても、周りの人の手助けがあれば安心して生活が送れるということを学びました。

こんな話を聞きました。雨上がり、

服がぬれて、髪の毛がばさばさになつてしまつたおばあさんが、小学生の女

の子二人に「わたしのうちの力を使知らない?」と声をかけてきたそうです。

女の子達は、「不審者だ。」と思つて、走つて逃げたそうです。そのおばあちゃんは、悪い人だったのでしょうか。

私は、悪い人ではないと思いました。

きっと本当に力を使わなくて困つてい

たのでしょう。だから、もし私がそこ

にいたら、いつしょにさがしてあげた

や近所の大人を頼りたいと思います。

年を取つて、認知症になつてしまつた

り、体が思うように動かなくなつてしまつたりする方もいます。でも、周り

の人が、不安な気持ちに気付いて、優しく声をかけてお手伝いしてあげられ

ました。お年寄りも安心して暮らせます。

寄りから逃げたりしないで、自分にで見つめつけたり、困つているお年

たら、お年寄りも安心して暮らせます。

きることをしてあげたいと思います。

いつか自分の大切な人達が年を取つたときにも、安心して暮らせるよう

社会のために、私の小さな力も役に立つと信じて。

大竹そら

私を変えた奉仕活動

喜多方市立慶徳小学校 六年

を見て、母も同じ気持ちなのだと感動しました。「この神社は、私たちの地域の宝物だよね、だから気づいた人がみんなのために、「ゴミを処理するしかないんだよね。」

みんなのために頑張ることと、学校で学習したボランティア活動やSDGs活動の目標にそつくりだと思いました。

そんなことがあって、私は時間があ

る」と神社を訪れるようにしていました。すると、神社の遊具や駐車場のところに、落書きを見つけました。見つけた瞬間に、家に戻つてぞうきんを用

意して神社に行きました。水でぬらしてこすつてみると少しずつうすくなつ

つきりし、笑顔で家に帰りました。「ど

うしたの、どこに行つてきたの。」母

が言いました。「神社の遊具や駐車場に落書きがあつたから消してきましたね。」神社の境内にある駐車場のゴミ箱に「ゴミが毎日少しずつたまつています。それがあと少しでこぼれ落ち

てしまいそうだつたのが心配で母に話しました。「このままだと神社にお参

りに来た人たちに悪い気持ちを持たせてしまうよね。そんな気持ちを持たれ

てしまった。

このことが、今の私を育ってくれた出来事です。どこにでもあり、だれもがしていることだと思うのですが、私にとっては、とても大きな出来事でした。

私は、神社の前を毎日の登校で通ります。神社の美しさを前よりずっと感じています。みんなのために何かをすることは、自分の心を美しくすることかもしれません。

私はこの神社がとても好きです。ゴミが落ちている景色を見たくないし、観光客の方々にも見せたくありません。母がゴミ袋にゴミを移している姿

「変わった私、伝わりましたか。」

私は、神社の前を毎日の登校で通り家に帰つてゴミ袋を持ってきました。そして、ゴミ箱からゴミを取り出して、ゴミ袋に入れました。

私はこの神社がとても好きです。ゴミが落ちている景色を見たくないし、観光客の方々にも見せたくありません。母がゴミ袋にゴミを移している姿

介護ボランティアに参加して

喜多方市立塙川中学校 二年



佐藤小夏

皆さんは「介護」ということに対し

てどのようなイメージを持っていましたか？大変そう楽しそうなど人それぞれイメージは異なると思います。私は大変そういうイメージを持つていました。

私の祖母は、介護士です。毎日、家へ帰つてくる祖母が疲れ果てている姿を見ているので私は「介護」ということにあまり良いイメージを持っていませんでした。しかし、介護といふことに今まで関わりがなかったので、サマーショートボランティアに参加する」としました。

初めは、自己紹介から始まりました。とても緊張しましたが利用者の方の温かい笑顔を見ると、少しずつ緊張が解かれていいくような感じがしました。その後は、ぬり絵やお話をなどをして利用者の方と交流をしました。利用者の方から声をかけてくださることが多く、私の緊張は完全に解かれました。

色々な方と楽しく沢山の会話をする反面、誰とも話さず外を眺めている方がいました。話しかけるべきのかどうか迷いましたが、「ほんにちは。このぬり絵とてもきれいですね。」と声をかけました。しかし、その方の反応はありませんでした。ですが私はその方の笑顔を見ることができるよう

喜多方市立山都中学校 三年



田代詩衣多

私は、今まであまりボランティアに参加したことがありませんでした。学校や地域でそういう活動があることを知っていますが、自分には少し関係がない」と感じていました。ですが、そんな私がこれまでの生活で経験しているボランティアがあります。それは「山都町の市民運動会」です。私は中学一年生と二年生のとき、「この行事にボランティアとして参加しました。

一年生のときは、正直に言えば「友達がやるから、私もやる」という軽い気持ちでした。ボランティアと聞いても大変そだし、自分にできることかなと不安もありました。しかし、実際に参加してみると自分が思っていたよりずっと楽しく、そしてやりがいのある活動でした。特に、普段は話すことのない地域の方々と協力しながら準備したり、運営を手伝ったりすることで、学校生活だけでは得られない新しい経験ができました。

市民運動会での主な仕事は、競技の準備でした。例えば、ゴールテープの用意をしたり、各順位の人の誘導をしたり、得点係の方のお手伝いをしたりすることです。一見すると簡単な作業に思えますが、実際には競技をスムーズに進めるために、正確な素早さが求められました。最初はうまくいかず、他の役員の方に助けてもらつたと思います。

私は、できる私達が、できない方を支え、利用者の方が笑顔で過ごせるような環境を作つていただきたいです。この経験を生かし、相手に寄り添うことと笑顔を忘れずに過ごしていきたいです。

また、活動しているとき、地域の方々がありがとうございました。たった一言でも心が温かくなり、自分の行動が誰かの役に立っているという喜びを強く感じました。普段の学校生活では、勉強や部活動で努力することが多いですが、その結果を「ありがとう」という言葉で直接返してもらえる経験はなかなかありません。その言葉の重みは、自分が想像していた以上に大きくて、残るものでした。

二年生のときは、もう「友達がやるから」ではなく、「自分がやりたいからやる」という気持ちで参加しました。前年の経験が楽しめたこと、達成感があったことが大きな理由です。さらに、「今年はもっと上手に役に立ちたい」と思って頑張りました。「これからもその素敵な笑顔で頑張ってね。」と声をかけて下さり胸が熱くなりました。車の中でも手を振つている利用者の方を見て心の底から参加して良かつたと感じました。

一日という短い間でしたが、大変なことや介護について学ぶことができました。しかし、それ以上に楽しいことややりがいを感じることが多く、祖母がどんなに大変でも介護士を何十年も続けている理由が分かっただと思います。

最後にオリエンテーションを行いました。温かい笑顔と拍手に囲まれ、自然と笑顔になり疲れも全てなくなるように感じました。そして、最後に玄関でお見送りをしました。全員の方が「若者からパワーを貰えて頑張れました。」や「これからもその素敵な笑顔で頑張ってね。」と声をかけて下さり胸が熱くなりました。車の中でも手を振つている利用者の方を見て心の底から参加して良かつたと感じました。

この体験を通して、私は「ボランティア」というものに対する考え方が変わりました。以前は「特別な人がやること」と思っていましたが、実際は私のような普通の中学生でもできることがたくさんありました。そして、その小さな行動が地域の人の役に立ち、自分自身にも大きな喜びや学びを与えてくれます。ボランティアは、誰かのためだけでなく、自分を成長させる大切な機会でもあると感じました。

今後、私は高校生になつても、こうした地域の活動に積極的に参加していきたいと思いまし。たとえ小さなことでも、自分ができることを見つけて取り組んでいきたいです。そして、将来は社会に出て、この経験を忘れずに「誰かのために行動できる人」でありたいと思います。

町民運動会のボランティアは、私にとって初めて本気で取り組んだ活動でした。それは短い時間の出来事でしたが、大きな学びと気づきを与えてくれました。この経験を通して得た「感謝される喜び」と自分も役に立てるという自信

胸にこれからも成長していきたいです。

令和7年度介護職員初任者研修全課程修了

介護職として働く上で基本となる知識・技術を習得し、介護事業所での就労と定着化を目的とした介護職員初任者研修は11月22日に閉講式を迎えるました。

延べ45日間、131時間の講義を修了した13名の受講生に修了証を交付しました。



ちびっこ広場クリスマス会

「わくわく♪ちびっこ広場」喜多方会場・塩川会場でクリスマス会を開催しました。クリスマスにちなんだ音楽に合わせて一緒に踊って、クリスマスツリーを作りました。サンタさんも登場し、楽しいクリスマス会となりました！



広げようふくしの輪 年末年始フードドライブ

～“きたかたふくしネットワーク”の取り組み～

市内の高齢者福祉事業に携わる社会福祉法人で構成されている「きたかたふくしネットワーク」は、協働で地域貢献に取り組み、地域福祉の向上を図ることを目的としています。

年末年始フードドライブとして、本会をはじめ、それぞれの法人で働く職員の皆さんに協力を呼びかけ、約1000点の食品や日用品の提供をいただきました。

寄せられた食品等は生活にお困りの世帯への配分や子ども食堂で活用します。

【協力法人・施設】

社会福祉法人啓和会、社会福祉法人高尚会

社会福祉法人天心会、ケアホームやまと、社会福祉法人喜多方市社会福祉協議会





赤い羽根共同募金

ご協力ありがとうございました



御
礼

今年度も赤い羽根共同募金運動が
十月一日より全国一斉に実施されま
した。

市内小中高等学校や民生児童委員
の皆様をはじめ、関係各位の多大な
ご協力を賜り、十二月三十一日を
もって募金活動を無事に終了するこ
とができました。

市民の皆様には、赤い羽根共同募
金運動の趣旨をご理解いただき、地
域のたすけあいの輪を広げるため、
多くの心温まるご支援とご協力を賜
りましたこと、心より御礼申し上げ
ます。

赤い羽根共同募金や歳末たすけあ
い運動へお寄せいただいた募金は、
地域で援助を必要としている方への
支援や、地域の社会福祉の増進のた
めの活動等に役立てられます。
今後とも皆様の善意を様々なかた
ちで、地域に根ざした福祉活動の拡
充に努めてまいりますので、「じぶん
の町を良くするしくみ」である共同
募金運動への変わらぬご支援とご協
力をよろしくお願ひいたします。

令和八年二月

喜多方市共同募金委員会会長
志田 公司



一般共同募金

7,292,574円

歳末たすけあい募金

4,390,883円

寄付本事業へのご協力
ありがとうございました!



○寄付本による募金実績 39,014円
○寄付物品 本、漫画本、DVDなど 2,420点

地区	一般共同募金	歳末たすけあい募金
喜多方地区	4,225,034円	1,402,443円
熱塩加納地区	400,987円	534,484円
塩川地区	1,740,461円	1,751,255円
山都地区	589,333円	451,702円
高郷地区	336,759円	250,999円

令和8年1月20日現在

ぼらせん通信

出張開催

「わくわく♪ ちびっこ広場 in めごぶらざ」 行いました！

12月24日(水)、アイデミきたかたで「わくわく♪ちびっこ広場inめごぶらざ」を行いました。ニュースポーツとしても楽しまれている「輪投げ」や、レクリエーションゲーム「ふくろう物語」を体験し、親子で楽しく、参加されている様子が見られました。



**ボランティア
活動保険
について**



ボランティア活動保険は、ボランティア活動中の事故による「ケガ」や「損害賠償責任」を補償する保険です。社会福祉協議会では、ボランティア活動を行う際の備えとしてボランティア活動保険への加入を推奨しています。内容の詳細は、全国社会福祉協議会ホームページ「ふくしの保険」で確認することができます。または、下記までお気軽にご連絡ください。なお、3月より次年度のボランティア活動保険の更新手続きができますので、お忘れのないようお願いします。

	基本プラン	天災・自身補償プラン
保険料	350円	500円

ボランティアに関する
お問い合わせ | 喜多方市社会福祉協議会ボランティアセンター TEL 0241-23-3231

「令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金」 及び「令和7年8月6日からの大雨災害義援金」 ご協力の御礼とご報告

本協議会では、被災者の方々を支援するため「令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金」及び「令和7年8月6日からの大雨災害義援金」の協力の呼びかけを12月12日まで行ってまいりました。

お寄せいただいた義援金は、日本赤十字社福島県支部及び福島県共同募金会を通じて、全額が被災地域に届けられました。

皆さまの温かいご支援とご協力に感謝申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

「令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金」 義援金総額 14,558円
「令和7年8月6日からの大雨災害義援金」 義援金総額 12,291円

⊕日本赤十字社福島県支部喜多方市地区
福島県共同募金会喜多方市共同募金委員会

生活サポートセンター からのお知らせ

赤い羽根共同募金より助成をいただきました

福島県共同募金会の「令和7年度 生活困窮者への緊急支援活動助成事業」の助成を受け、食料品(米、麺類、缶詰、調味料、菓子、みそ汁等)や日用品(生理用品、おむつ)等のフードバンク品を購入させていただきました。

購入した食品等は生活にお困りの方に提供させていただきます。ありがとうございました。



じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金



こんなことで困っていませんか？

仕事のこと

- ・仕事がみつからない
- ・仕事が長続きしない
- ・働きたいが何から始めればよいかわからない
- ・社会に出るのが不安



お金のこと

- ・毎月の家計がうまくまわらない
- ・家賃や公共料金が払えない
- ・税金を滞納している
- ・借金の返済が大変
- ・子どもの学費がない



くらしのこと

- ・生活に不安がある
- ・家族が引きこもっている
- ・病気で働けなくなった
- ・病院へ行けない、治療費が払えない
- ・お金も食べ物もない



お困りの状況や生活を一緒に考え、整理していく相談窓口です。
状況に応じハローワークや他関係機関へも同行支援します。

相談
無料

秘密
厳守

です。

ご相談・お問合わせは

喜多方市生活サポートセンター (社会福祉法人 喜多方市社会福祉協議会内)
☎0241-23-7373までご連絡ください。



～「これからのこと」一緒に考えませんか？～

成年後見相談センターが実施していること

- 制度全般の説明・相談
- 適切な相談窓口、機関の紹介
- 制度の利用に向けた専門職への相談
- 申立手続きの支援
- 制度の利用を検討するための会議の開催
- 出前講座 など



成年後見相談センターでの相談は無料です。

ご相談・お問合わせ

喜多方市成年後見相談センター

(喜多方市社会福祉協議会 権利擁護推進室)

〒966-0043 喜多方市字上江3646番地1(喜多方市総合福祉センター内)

TEL.0241-23-7373

FAX.0241-23-3296

喜多方市地域包括支援センター からのお知らせ

日頃の習慣でフレイル予防！

寒い日が続き、家の中にいて動かないことが続くと、心身機能の衰えが心配されます。「フレイル」とは、高齢期に身体的・精神的なさまざまな機能が徐々に衰えた状態をいいます。フレイルの予防・改善に取り組んでいきましょう！

みなさまの元気
応援します



フ

フダン（普段）の生活の中で、こまめに体を動かす生活を心がけましょう



- 買い物
- 床ふき
- 庭掃除
- ペットの散歩
- 階段昇降

など

レ

レベルアップはあせらずに、楽しんで行える運動をコツコツ続けていきましょう



- いつもより少し速く歩く
- 軽い筋トレから始めて、「ややキツイ」と感じるところまでやってみる

など

イ

イチニチ（1日）の食事量が少なくなっていますか？
しっかり食べて体力向上！



- 1日3食いろいろ食べる
- 半年に1度の歯科健診でかむ力を維持する
- 誰かといっしょに食べるなど

ル

ルールは「ポジティブ思考」前向き、自発的に人と交流する機会を持って、毎日いきいき！



- 1日1回以上外出しよう
- 週1回以上交流しよう
- 月1回以上活動に参加しよう

東京都健康長寿医療センター研究所「健康長寿新ガイドライン エビデンスブック」より

★「最近身体が弱ってきて心配だ」「フレイルかもしれない」。そんな時は、地域包括支援センターにお気軽にご相談下さい。フレイル予防のための、さまざまな情報を提供いたします。

●本所 0241-21-8856 喜多方市総合福祉センター内

●熱塩加納サブセンター 0241-36-2336 ●山都サブセンター 0241-38-3139

熱塩加納保健福祉センター「夢の森」内

山都過疎高齢者生活福祉センター「しゃくなげホーム」内

●塩川サブセンター 0241-27-4047 ●高郷サブセンター 0241-44-7111

塩川保健福祉センター「いきいきセンター」内

高郷高齢者生活福祉センター「かたくり荘」内

営業日：月曜日から金曜日
(祝日、年末年始を除く) | 8時30分～17時15分

17時15分～19時30分までは事前にご予約いただければ相談対応いたします。

ご寄付ありがとうございました

一般寄付

〈喜多方地区〉

・慶徳公民館まつり

・株式会社レゾナック喜多方事業所

・伊藤ひさ子

・キリスト教会ふどうの枝

・塗物町

・上富上富二区

・蓮沼喜一郎

・小椋和洋

・渡邊敏明

・新田智裕

・須田智裕

・山中和彦

・安部智裕

・鶴巻敏明

・石川和彦

・佐藤智裕

・植田智裕

・伊藤智裕

・大竹智裕

・田中智裕

・斎藤智裕

・上野智裕

・大橋智裕

・伊藤智裕

・京子智裕

・隆志智裕

・久憲智裕

・直美智裕

・圭一智裕

・哲也智裕

・孝夫智裕

・貴子智裕

・隆志智裕

・廣喜智裕

・江智裕

・坂井智裕

・渡部智裕

・立川智裕

・佐野智裕

・木町智裕

・西方智裕

・田中智裕

・沖智裕

・反田智裕

・田中智裕

・坂井智裕

・渡部智裕

・立川智裕

・佐野智裕

・木町智裕

・坂井智裕

・渡部智裕

・立川智裕

・佐野智裕

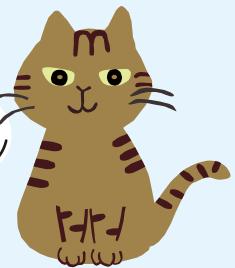
喜多方市高齢者生産活動センター

いきいきチャレンジ! 体験教室♪ &作品販売♪

- 日時 令和8年3月7日(土)~8日(日)
午前10時~午後1時30分
- 会場 喜多方市高齢者生産活動センター
- 販売 陶芸製品、裂き織り製品、手芸製品、
押し花絵製品を販売いたします♪



新規会員
募集中!



グループ	体験料	受入人数/内容	時間
手芸	600円	3名/日 つるし飾り(布)	1.5時間
陶芸	1,500円	10名/日 皿、茶碗など	2時間
織物	1,000円	10名/日 裂き織りテーブルセンター	2時間
押し花絵	1,000円	3名/日 押し花絵ブローチ	1.5時間
わら工芸	600円	3名/日 長々縄	1時間

2月末
申込締切

体験は事前申し込みとなります。
概ね60歳以上の方が対象になります。
また、体験料は一人あたりの料金です。

[お問合せ・申込先]

喜多方市高齢者生産活動センター
喜多方市岩月町宮津字火付沢3567-1
TEL 0241-24-2297 (月~金 8:30~17:15)

陶芸教室 会員募集のお知らせ

喜多方市社会福祉協議会塩川支所では「陶芸教室」会員を募集しています。

「生きがいづくり活動」の一環として、ろくろやたら作り、手びねりなどの技法で、土のぬくもりを感じながら、陶器の創作活動をしてみませんか。

初心者の方でも、会員さんが丁寧にアドバイスしてくれますのでお気軽にお申し込みください。



活動場所 生きがいセンター
(塩川保健福祉センターとなり)

募集期間 令和8年2月2日(月)~3月27日(金)

募集人数 若干名(火曜日・水曜日に活動できる方)

活動期間 令和8年5月~11月(週2回程度)

申込資格 概ね55歳以上で喜多方市民の方

問合せ
申込み 喜多方市社会福祉協議会
塩川支所 ☎0241-28-1254

令和7年度 ふれあい 社会福祉講座(後期)のご案内

社会福祉に対する理解と関心を深めるため、市民の皆様を対象とした『ふれあい社会福祉講座』を開催します。

毎年、各週にわたり全3講開催してきました本講座は、今年度は前期・後期の2回にわけて開催する事となりました。

後期 令和8年3月10日(火)
午後1時30分~3時

テーマ 「あたまの健康について(仮)」

[講師] くもん学習療法センター

認知症や脳に関する知識、脳をいきいきと活性化させるための具体的な方法について学びましょう。

会場 喜多方市総合福祉センター2階

多目的ホール(喜多方市上江3646番地1)

無料

問合せ先 0241-23-0345

詳しい内容につきましては、決定次第、本会ホームページ、Facebook及びチラシ等でもお知らせいたします。



※きたかた社協だよりの作成経費は、福祉活動支援金・賛助会員会費
及び共同募金配分金等を活用させていただいております。